

【テーマ】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組 ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

単元名：安全な社会生活（応急手当）

1 実施の概要

- (1) 実施環境：教室（Wi-Fi環境あり）
- (2) 使用機器：タブレット（1人1台）
- (3) 活用ソフト：PowerPoint、書画カメラ
- (4) 対象：2年次 20名

2 実践研究のねらい

- ・タブレットを使用し、情報を収集する能力を向上させ、前時に習得した心肺蘇生法についての知識の定着や、さらなる学びを促す。
- ・書画カメラを活用し、グループで作成したワークシートを全体で共有することで深い学びにつなげる。
- ・グループ活動での話し合いや役割分担を通して、積極的な対話を促す。

3 具体的な活用方法

- ・心肺停止状態の人を発見した場面を設定し、傷病者を救うためにどんな行動ができるのかをグループで考える。グループ活動時に、一人一台タブレットを使用し、AEDがある場所や心肺蘇生法について調べる。その際、全国AEDマップを活用し、傷病者にAEDを運ぶまでの距離や時間を具体的に調べる。
- ・各グループでワークシートを作成し、一人ひとりがどのような応急手当を行うのかを発表する。発表時には、書画カメラを使用する。作成したワークシートをホワイトボードに拡大して映し、全体で共有する。

4 活用の実際 (ICT環境を生かした指導の工夫)

【学習の流れ】

【導入】

前時の復習
本時の内容



【展開】

グループ活動
グループ発表



【まとめ】

心肺蘇生法のまとめ
振り返り

【活用場面】 場面：グループ活動中、発表時

グループ活動では、一人一台タブレットを使用した。心肺停止状態の人を発見した場面を設定し、傷病者にAEDを持っていくまでの距離や時間を具体的に調べた。グループで作成したワークシートを発表する際には、書画カメラを使用した。ホワイトボードにワークシートを拡大して映し、全体で共有した。

【工夫した点】

- ・ワークシートにAEDマップのQRコードをつけ、スムーズにAEDマップを開いて調べることができるようにした。
- ・生徒にとって身近な学校近くのコンビニや駅、商業施設を心肺停止状態の人を発見した場所として設定し、身近に起こりうることとして考えることができるよう工夫をした。
- ・書画カメラを使用するため、ワークシートの文字を大きく書くことや、どのようなポイントで作成したかがわかるように、色を使って作成するよう指示をした。

【活用場面写真等】



【活用場面写真等】



5 参加した生徒の感想等

- ・身近な場所にもAEDがあることが知れてよかった。
- ・グループで協力してAEDマップを使ってAEDの場所を探したり、誰が何をするのか話し合いをしながら活動できた。
- ・119番通報や胸骨圧迫、AEDの手配など複数人で役割分担をすることが大事だと分かった。
- ・具体的に心肺蘇生をするときの動きをシミュレーションをすることができて、いざというときにこの授業を思い出して行動できるようにしたい。
- ・他のグループの発表を聞いて、調べきれなかったAEDの場所まで知ることができたので覚えておきたい。

6 成果と課題

【成果】

- ・一人一台タブレットを使用することで、AEDの場所や距離、持ってくるまでの時間について主体的に調べることができていた。
- ・グループ活動の中で、心肺停止状態の人を救うために具体的にどのように動くのか対話しながら役割分担をすることができていた。
- ・書画カメラを用いて全体で共有することで、新たな発見や心肺蘇生法のポイントを再確認をすることができた。

【課題】

- ・グループの中で特定の生徒がワークシートを記入していた。ワークシートを紙で作成したが、MetaMoJiなどでワークシートを準備し、タブレットを使用すれば、より一人ひとりが考えを記入しやすくなるのではないかと感じた。
- ・各グループの発表時に評価表を記入させたい。全体で発表を共有するだけでなく、相互評価を行うことで自身のワークシートを振り返りながら、良さや改善点を見つけることができる。